

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

どの子ども読書の楽しさを味わい、読書活動を意欲的にする 取り組みについて

島根県安来市立井尻小学校
和田 奈緒子

はじめに

マルチメディアDAISY図書を活用した取り組みを始めて4年目となりました。「一人ひとりが自分に合った形で読書活動を進めていく」という職員の共通理解のもと、昨年度までは、読みに困難さを感じる子どもへの支援を中心に取り組んでいましたが、今年度は、どの子どもも自分に合ったスタイルで読書を楽しみ、読書活動に意欲的に取り組めるようにと考えました。

活用の実例

〈図書一覧の作成〉

これまで発刊された「わいわい文庫活用術」を参考に、蔵書ポスターを活用して、図書一覧を作成しました。



表紙の絵は、子どもたちが本を選ぶ時の重要な情報源となり、マルチメディアDAISY図書を選ぶ楽しみにもつながりました。

また、子どもたちが実際の本を手にする際にも、同じ本を探すことが簡単にできるようになりました。

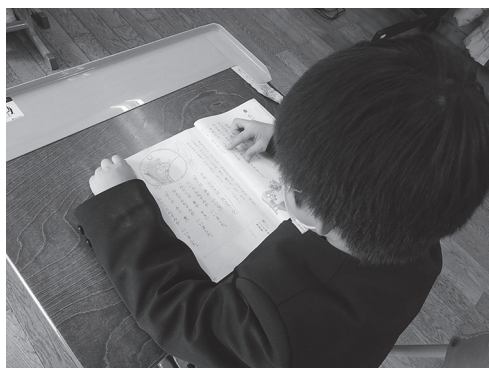
〈音韻処理にむずかしさのある子どもへの対応〉

1年生のAさんは、入学時にはひらがなの読みはほぼできていました。Aさんは、言葉の発音、特に、カ行、サ行の発音にむずかしさがありました。

ひらがなの学習を終えた後のチェックでは、「ちきゅう」を「ちちゅう」と筆記しており、発音のむずかしさが文字の表記にも影響していることが伺えました。

マルチメディアDAISY図書による読書に取り組み、音と文字の一致を図ることにしました。マルチメディアDAISY図書により、耳で言葉の発音を聞きながら、ハイライトによって文字に注目することができました。

ふだんの学習の中でも、デジタル教科書の読み上げを活用したり、文章を読むときに指で文字を押さえたりして、耳からの音と目からの文字の一致を図ることで、正確な文字表記を習得しつつあります。



〈読み飛ばし・勝手読みのある子への対応〉

1年生のBさんは、語彙が豊富で流ちょうに話ができます。ひらがなの読み書きも入学時にほぼ習得していました。国語の学習には、困難さはないかと思われましたが、内容理解につまずく場面が見られました。

音読で確認してみると、勝手読みや読み飛ばしが散見されました。読書の後に、内容を確認してもあいまいな部分がありました。また、文字よりも耳からの音声を優先してしまうため、「よごれる」という単語を「よぼれる」と覚えているような実態もわかりました。

マルチメディアDAISY図書を試したところ、「これ、便利！ 簡単に本が読

める！」と、とても気に入った様子でした。慣れてくると速度を調整し、Bさんの聞く力にあわせた速度で、より心地よく本の世界に浸ることができているようでした。

マルチメディアDAISY図書での読書の後は、学校司書とお話クイズをしたり、もう一度ページをめくりながら読書をしたりして、内容を確実に理解できるよう確かめながら読書を進めています。



〈集中に困難さのある子への対応〉

1年生のCさんは、姿勢の保持や集中にむずかしさがありました。読書をしていても、同じ部屋にいる誰かが動くと、そちらに注目が向いてしまいます。15分の朝の読書の時間に何度も集中が途切れる様子が見られました。

マルチメディアDAISY図書の活用により、ヘッドホンを着用することで周囲の雑音がなくなること、画面に集中することで周囲の動きも気にならなくなり、1冊の本を読み終えるまでの間、集中が続くようになりました。

自分で読書をする際には、人数の少ない部屋で読んだり、人との間隔をあけたりして集中しやすい環境になるよう心がけています。

〈 単語の区切りや改行が苦手な子への対応 〉

3年生のCさんは、読書に意欲的に取り組んでいます。内容の理解もある程度できますが、音読をする際に、単語の途中で単語が区切れていると、読みや理解につまずき、混乱してしまうことがあります。

マルチメディアDAISY図書やデジタル教科書のハイライト機能を活用して、単語として言葉の区切りを理解することで、文章の理解がよりスムーズに進むようになりました。

テストでも、単語が改行により把握しにくい時は、蛍光ペンなどでハイライトのように色をつけたり、読み上げをすることで、読みの困難さが内容理解の妨げとならないよう必要に応じて配慮するようにしました。

〈 読書の取り組みを普段の学習に生かす 〉

2年生のDさんは、昨年度から継続してマルチメディアDAISY図書での読書に取り組みました。読むことの困難さの根本に語彙の少なさや追視のむずかしさなどがあるように見受けられたため、読書への取り組みと同時に、ビ

ジョントレーニング、言葉遊びなどの取り組みをしています。



また、Dさんは算数の学習でもリーディングトラッカーを使用しています。教科書に練習問題が多くなっている時に自分のやっているところがわからなくなることを防ぐために活用を始めました。自分で必要であると感じた時に出して使うようになりました。

読書での取り組みが、別の学習の場面でも生かせるようになっていきます。

おわりに

マルチメディアDAISY図書を活用した読書の取り組みを始めて4年が経ちました。

子どもたちは、自分に合ったスタイルで読書に親しんでいます。





マルチメディアDAISY図書を特別なものとしてではなく、図書館にあるたくさんの本の中の1冊として扱うことで、子どもたちの読書への負担を減らし、楽しみを増やすことになったように思います。

また、図書館では、学校司書の工夫により本の世界を楽しむと同時に、季節の変化などを感じるしかけがつくられています。



子どもたちは、実体験と読書経験をつなげ、自分の言葉の世界を広げていきます。中学年以上の子どもでは、ページ数のある読み応えのある本を読んだり、その内容を楽しむことができるようになった子どもが増えてきました。

実際に、1学期には15分の朝読書が「つらい、長い」と感じている子どもが4、5人いましたが、マルチメディアDAISY図書やリーディングトラッカーをはじめとした自分に合ったスタイルでの読書が続けていることで、2学期末には、朝読書を「つらい、長い」と感じている子どもはいなくなり、「楽しい」と答える子どもが約半数を占めるようになりました。また、朝読書の終わりを告げるチャイムが鳴っても、読書に没頭している子どもの姿も増えています。

子どもたちの読書意欲を支えるマルチメディアDAISY図書のおかげで、今日も、本校の図書館は「わいわい」とにぎやかです。

